

令和元年 6 月 27 日

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会  
平成 30 年度事業報告書

平成 30 年度の事業活動に関し、下記の通り報告いたします。

### 事業環境および活動概観

平成 30 年度の世界経済は、全体として堅調を維持しつつも、貿易摩擦長期化に伴う景気減速を懸念する声が強まってきた。緩やかな回復基調を続けてきた日本経済も先行き不透明感が広がってきているが、労働需給のひっ迫による技術・技能面でのミスマッチ対策として人材育成や働き方改革に取り組む企業は多かった。

21 回目を迎えた PM シンポジウム 2018 の参加者数は過去最多を更新し、資格試験・講習事業についても堅調に推移した。ただし、プログラムマネジメントの分野で企画した講習会や PMR 資格試験が低調に終わり課題を残した。

収支面では、計画に届かなかったものの小幅の改善となった。

引き続き、P2M 資格認知度向上に向けた広報普及活動等に注力していく所存である。

## 1. 全般運営

### 1.1 総会・理事会等の開催

- (1) 通常総会 1 回、定例理事会 4 回を開催した。(表 1、表 2 参照)
- (2) 運営会議を 8 回開催した。(表 3 参照)

### 1.2 組織に関する件

#### (1) 新役員選任

6 月 21 日(木)開催の通常総会において、辞任する 3 名の理事（高岡一敏氏、川腰浩文氏、村田敏哉氏、）の後任として、常盤努氏、飯島尚氏、益田信久氏の 3 名が理事に選任された。

#### (2) 役員退任

同総会において、田原幸朗氏の退任が報告された。

### 1.3 会員の状況（会員数は、3 月 31 日現在：会費納入者数に特別会員数を加えた数）

- (1) 個人会員 1,218 名（前年度末 1,279 名）
- (2) 法人会員 86 社（前年度末 86 社）
  - 法人正会員 72 社（前年度末 73 社）
  - 法人賛助会員 1 社（前年度末 1 社）
  - 法人特別会員 13 社（前年度末 12 社）

#### 【会員会費収入】

単位：千円

	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画	平成 30 年度実績
個人会員会費収入	7,017	6,549	6,693
法人会員会費収入	9,048	8,760	8,808
会員会費収入	16,065	15,249	15,501

## 2. 事業

### 2.1 資格認定事業

PMS 資格および PMS プログラム試験を 3 回（6 月、10 月、2 月）、PMC 資格試験を 6 回（奇数月）CBT(Computer Based Testing)方式により実施した。（表 4 参照）

- ① PMS 資格および PMS プログラム試験は、上期 1 回下期 2 回実施した。受験資格を拡大（PMP®等他資格保有者に受験資格付与）して 3 年目となる PMS プログラム試験の受験者数が減少したものの、PMS 資格試験の受験者数が伸び PMS 全体としての減少は小幅に留まった。
- ② PMC 資格試験は、前年度実績及び計画を大きく上回る応募者数となった。e ラーニングを始めとする研修受講者数が堅調に推移したこと、及び PMC 資格取得に会社全体で取り組んだ先があったことなどが要因である。
- ③ PMR 資格試験は、試験紹介セミナー等を実施して受験者獲得に努めたが 5 名の応募に留まった。また、二次試験については応募者が 3 名と最低催行人数達しなかったことから実施を断念した。

#### 【応募者数】

単位：名

資格種類	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 計画	平成 30 年度 実績	平成 30 年度 合格者実績
PMS 資格	158	160	171	77
PMS 資格 (PMS プログラム試験経由)	109	130	83	45
合計	267	290	254	122
PMC 資格	297	300	417	274
PMR 資格（一次）	5	7	5	3
PMR 資格（二次）	4	7	3*	—

\*PMR 資格二次試験は未実施のため、応募者 3 名だが受験者は 0 名である。

#### 【資格認定収入】

単位：千円

	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画	平成 30 年度実績
資格認定収入	18,549	19,579	21,038

### 2.2 P2M 講習・研修

- ① P2M プログラム知識習得講座（表 5 参照）

試験対策として新設した P2M プログラム知識習得講座は、4 回開催 10 名の実績で前年度実績 4 名を上回り日程短縮（4 日間→2 日間）の効果が出ている。

- ② P2M プログラム実践研修（表 5 参照）

実践研修として新設した P2M プログラム実践研修は、受講申し込みがなく 6 回共開催中止となった。P2M 講習会と同様の金額設定をしたが、来年度は特別講座並みの金額に値下げする。一方において PMR 資格者から講師を募り新規コース 2 件の開発を完了してメニュー充実を図った。これにより、講師 3 名で期 3 回実施が可能となった。

- ③ e ラーニング

e ラーニングは、PMC の伸びが著しく前年比 133%となり、P2M プログラム実践研修の減少をカバーしている。

## 【受講者数】

単位：名

資格種類	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画	平成 30 年度実績
PMC 講習会	402=76+(326)	400	534=61+(473)
P2M-P 知識習得講座	91=4+(87)	120	76=10+(66)
P2M-P 実践研修	—	30	0
P2M 実践力養成研修	5	7	2

(注) P2M-P、PMC の ( ) 内数字は、プロバイダ集合研修+eラーニングの数字

## 【P2M 講習・研修収入】

単位：千円

	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画	平成 30 年度実績
P2M 講習研修収入	13,502	14,976	11,802

## 2.3 PM 一般研修

## ① PM 研究・研修部会活動（表 6 参照）

PM 研究・研修部会セミナー、PMP®試験対応講座、PMBOK®ガイド基礎講座を開催し、概ね堅調に推移した。

## ② PMAJ 特別講座（表 6 参照）

特別講座として 4 回開催を企画するも、特定テーマの 2 講座以外は応募者数が少ないため開催できなかったことから、令和元年度に向け対策を検討中である。

## ③ PM マイスター講座（表 6 参照）

PM マイスターによる講座を上期中に 2 回開催した。下期は PM シンポジウムにおいて PM マイスタートラックを設けたこともあり、開催を見送った。

## ④ PM 公開講座

共催契約先が実施する PM 公開講座は伸びず、前年度を下回る実績となった。

## 【PM 一般研修収入】

単位：千円

	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画	平成 30 年度実績
PM 一般研修収入	6,275	5,000	3,824

## 2.4 PM 法人研修・大学 PM 講座

## (1) 企業講習会

1 社で、受託した。

- ・自然電力発電設備を構想・施工・運営する企業グループを対象に、英語での PM 研修を実施（9 月～12 月、全 6 回）

その他 2 社において具体的な相談を受けたが、企業サイドの日程調整・人集めが厳しく、企業講習会以外の研修メニューで社内の PM 普及に取り組むこととなった。

A 社：社員一斉の PMC 資格取得を図ったが日程調整できず、担当係長が P2M 資格を取得して社内教育と講習会を組合せて逐次増やしていくよう方針を変更。

B 社：P2M 出前講座（3 日間）を行うとして講師もアサインしたが、受講対象者の業務都合と合わずに中止。個々の都合に合う日程での共催講座受講となった。

## (2) 各種団体研修

- ① 国立研究開発法人科学技術振興機構（略称 JST）向けプログラムマネージャー育成・活躍推進プログラムサポート（平成 30 年 5 月、平成 30 年 8 月）：講師派遣
- ② AOTS（海外産業人材育成協会）：低炭素社会への PM 応用講座（11 月、3 月 2 回）実施

## (3) 大学 PM 講座

以下の大学・大学院で P2M 講義、授業等を行った。

- ① 北陸先端科学技術大学院大学（継続）東京 7 月、石川 2 月
- ② 宮城大学（新規、今後継続の意向あり）2 月
- ③ 藤女子大学 の新規 PM 講座開設に協力（平成 30 年度より、スタート）

### 【PM 法人研修収入】

単位：千円

	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画	平成 30 年度実績
企業・団体・大学 講習会等収入	8,139	6,184	6,295

## 3. 会員活動

### 3.1 PM シンポジウム 2018

9 月 13～14 日に開催した「PM シンポジウム 2018」は、有料参加者数 1,362 名、延べ参加者数 2,796 名となり、盛況裡に終了した。今年度の特記事項は次の通り。

- ① 有料参加者数は過去最多となったが、対前年比 101%と横這いとなってきた。
- ② 有料参加者数は昨年比に比べ 1 日目は 6 名の増加に対し、昨年初めて 1,000 名を超えた 2 日目は 33 名の増加となった。PMAJ・PM マイスターのトラックを設け参加者の選択肢が増えたのが一因となった。
- ③ 昨年より採用したバーコード方式参加票の受付システムは、参加者への周知とボランティア受付の質的向上により、昨年以上にスムーズな受付対応が出来た。
- ④ 2 日目の申込時満席の一講演において、申込していない参加者が多数入場したため、申込者が会場に入れない状況が発生し申込者に多大なる迷惑をお掛けし、次年度以降の対策が必要となった。

### 3.2 例会

東京例会 毎月 1 回開催（第 4 金曜日、表 7 参照）

### 3.3 PMAJ 関西

関西例会は 6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、2 月、3 月の 7 回開催。

関西 KP 会メンバーの尽力により昨年より参加者が増えた。また 11 月は特別例会とし、複数講師によるセミナー形式の例会を試みた。（表 8 参照）

### 3.4 会員交流セミナー

#### (1) 新春 PM セミナー2019（東京）

平成 31 年 2 月 6 日(水)に、大会テーマ『多彩な未来を切り拓く』の下 きゅりあん品川区立総合区民会館於いて開催し、589 名（前年 626 名）の有料参加者を得て終了。

#### (2) 地域 P2M セミナー

- ① 関西 P2M セミナー2018 は、経済産業省近畿経済産業局、エンジニアリング協会、IT コーディネータ協会の後援、ITC 近畿会／IT コーディネータ京都の協賛を受け、5 月 18 日(金) 大阪市立城東区民センター がもよんホールにおいて「未来を創る」～人・モノ・コト革新～ をテーマに開催、有料参加者 141 名（前年 117 名）を得て、盛会に終了した。
- ② 中部 P2M セミナー2018 は、10 月 13 日(土)ウィンクあいちに於いて開催し、有料参加者 34 名（前年 36 名）を得て終了した。
- ③ 中四国 P2M セミナー2018 は、11 月 9 日(金)R C C 文化センターに於いて開催し、有料参加者 23 名（前年 14 名）を得て終了した。
- ④ 九州 P2M セミナー2018 は、12 月 8 日(土)九州電気ビルに於いて開催し、有料参加者 31 名（前年 30 名）を得て終了した。
- ⑤ 産学連携 PM セミナー2018 は、今年の第 1 回目大阪大学開催から会場を東京に移し、経済産業省の後援をいただき、大会テーマ『エコシステム構築による新ビジネス創出』の下 品川区立総合区民会館 イベントホールにて開催し、有料参加者 168 名（前年 20 名）を得て盛況裡に終了した。

#### (3) 「新 P2M クラブ」

P2M 資格者による「新 P2M クラブ」を年 6 回開催を予定し 6 回実施（5/18、7/13、9/21、11/116、2/1、3/15）。

#### (4) 「朝活セミナー」

P2M 資格者を対象とする「P2M クラブ朝食会」を年 6 回開催を予定し 6 回実施（4/18、6/20、8/29、10/24、12/12、2/120）。

#### (5) 「異業種交流会（PMAJ Networking）」

会員、非会員を対象とした「異業種交流会（PMAJ Networking）」を 6 回開催を予定し 5 回実施（4/6、6/15、8/3、10/12、12/7:中止、2/15）。

#### (6) 「法人会員懇親会」

協会活動への意見等を直接伺うとともに、会員相互の交流の場とすることを企図して法人会員交流会を実施した。（7/5 実施）

### 3.5 P2M 研究部会（北海道、関西、中部、中四国、九州）

#### (1) 活動連絡報告会

9/12 各地域研究部会の代表による活動連絡報告会を昨年に引き続き PM シンポジウム開催前日にタワーホール船堀（江戸川区総合区民ホール）において実施した。

6/1 北海道 P2M 研究部会発足。

#### (2) 各地域 P2M 研究部会

九州 P2M 研究部会：4/21、6/23、8/25、10/20、11/17、1/19、2/16 の 7 回開催。

中四国 P2M 研究部会：毎月第 1 月曜を基本に平成 30 年度は、1 2 回開催。

関西 P2M 研究部会：定例会を 10/20、3/16 の 2 回開催。

ワークショップを 7/14、2/23 の 2 回開催。

中部 P2M 研究部会：PM 交流会を 6/16、8/25、12/15、2/16 の 4 回開催。

P2M 部会を 4/21、5/19、7/21、9/15、10/20、11/17、1/29、3/16 の 8 回開催

### 3.6 SIG (Specific Interest group) 活動

#### (1) IT ベンチマーキング SIG

##### ① 「TPS に学ぶ PM」ワーキンググループ(WG)

毎月 1 回 WG を開催。昨年に続き「価値共有の成熟度モデル」「なぜなぜ 5 回（階）の改善、普及」を活動テーマとし PM シンポジウム 2018 で成果を発表。

##### ② 「事例に基づく PM 問題集研究」WG

月次サイクルで WG を開催。PM 問題事例の書籍発行後の発展型として、プロマネ特性評価や、プロマネ傾向分析等に繋げる事が出来ないかの方法論を継続研究。

#### (2) ビジネス・イノベーション SIG

ビジネス・イノベーション人材の育成方法（リーダーシップの必要性、経営者向け、ビジネス・プロデューサー向け）を研究した。

#### (3) Women's SIG

働く現場のメンタル対策、新しい働き方とそのマネジメントについての研究、プロジェクトマネジメントのデザインの研究、ロールモデルとなる働き続ける女性のセミナー活動などを企画。

#### (4) R&D（研究開発のためのプロジェクトマネジメント）SIG

フェーズ 1 の研究成果としてタイトル「研究開発を成功に導くプログラムマネジメント」の本を出版した。引き続きフェーズ II のテーマについて検討を開始した。

#### (5) イベントマネジメント SIG

Advanced PMR Club (APC) 発足に伴い解散。

#### (6) ワークブレイクダウンストラクチャー(WBS) SIG – 休止

### 3.7 広報普及

#### (1) PMAJ News・ジャーナル

##### ① PMAJ News の配信

PMAJ News を引き続き月 2 回配信(本年度末までに 167 号を発行)。対象は PMAJ 会員、PMAJ 非会員、資格試験合格者、シンポジウムなどの PMAJ 活動参加者等、8,500 名に配信している。

##### ② PMAJ ジャーナル発行（年 3 回発行、表 9 参照）

## (2) 書籍出版

### ① 「アジャイル開発への道案内」

昨年 9 月に出版し、著者を講師として行った特別講座を今年度も実施(表 6 参照)。  
読者の要望を受け、続編の執筆に入った。

### ② 「プロジェクトの概念 (第 2 版)」 (7 月発行)

情報処理学会フェロー神沼靖子氏監修、大学生向けプロジェクトマネジメントの  
参考書として 2013 年 1 月に発行した初版の改訂版。(下記項番 4 参照)

### ③ 「研究開発を成功に導くプログラムマネジメント」 (9 月発行)

研究開発のためのプロジェクトマネジメント SIG の活動の一環として出版。

## 【会員活動収入】

単位：千円

	平成 29 年度実績	平成 30 年度計画	平成 30 年度実績
PM シンポジウム収入	34,503	34,500	36,320
その他会員活動収入	9,489	10,212	9,326
会員活動合計収入	43,992	44,712	45,646

## 4. 研究開発

### 4.1 教材開発

- ① 書籍「プロジェクトの概念」の改訂第 2 版を平成 30 年 7 月発刊(上記項番 3.7(2))。
- ② 書籍「プロジェクトの概念」の高専、大学、大学院での教科書の採用へ向けた市場開拓を図る。

### 4.2 改訂 3 版 P2M 標準ガイドブックの普及

法人会員企業に対する概要セミナーの実績なし。

### 4.3 国際交流

#### (1) 国内外における P2M 認知度の向上／拡大等

グローバル化推進部にて、国内外における P2M 認知度の向上／拡大等のための施策を実施。

- ① METI / Facebook NIN2 (Nippon New Network for Innovation) -P2M の活用。  
NIN2.P2M として投稿継続 P2M easy and practical Guide として Program Management を理解し易いように短く区切って連載し(~No.93)、9 月からは Project Management の紹介を始めた。(No. 1~30) また、Project Diary (A4 版 1 ページの PM 関連コラム) (~No.153) の投稿と合わせて週 1 回継続している。

- ② NIN2.P2M Project Diary (100 篇)のプリント・オン・デマンドでの出版を準備中。

#### (2) 国内 PM 人材のグローバル活動に向けた海外 PM 関係団体との交流継続

- ① PMI®、IPMA®、APFPM (Asia Pacific Federation of Project Management)、GAPPS (Global Alliance for Project Professions)、フランス、ロシア、セネガル、他との交流を継続。
- ② 韓国 PM 協会(Korea Project Management Association :KPMA)交流継続。PM シンポジウム 2018 に招聘し招待講演を実施するとともに、ソウルでの KPMA シンポジウム (11 月 14 日~15 日) に招待され講演を行った。

## 5. その他

### (1) 「PM マイスター制度」

- ① PM 経験豊富なシニアを PM マイスターとして認定し、その保有する経験・スキル・ノウハウを企業の現役の中堅従業員に対して伝授することを狙いとして平成 27 年度より「PM マイスター制度」を創設した。
- ② 平成 30 年度、竹林一氏を PM マイスターに選任し、計 7 名となった。
- ③ PM シンポジウム 2018 初日 (9/13) 3 コマ、2 日目 (9/14) 3 コマ、私の経験則として、得意分野を講演いただく。盛況であった。

### (2) 第 5 回 PMAJ 表彰と表彰式

平成 26 年を初回として、毎年 PM シンポジウムの中でプログラム・プロジェクトマネジメントの分野において優れた講演、活動、貢献をされた個人およびグループ（法人含む）を顕彰してきた。

今年度は 9 月 13 日開催の PM シンポジウム 2018 の懇親会に先立ち、第 5 回表彰式を執り行い、「優秀貢献賞」3 名（1 名+1 グループ（2 名））「優秀講演賞」1 名「PMAJ 特別賞」1 名の計 5 名を表彰した。

### (3) Advanced PMR Club の発足

PMR の認知向上活動および PMR による価値創造活動を通じて相互啓発するとともにプログラムマネジメントの普及促進を図ることを目的として、Advanced PMR Club を発足、2 つの分科会（認知向上分科会、価値創造分科会）を立上げ活動を開始した。メンバーは PMR 資格を保有する PMAJ 会員である。

表 1. 総会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2018.6.21	通常総会	539名	平成29年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 平成30年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員選任の件	可決 可決 可決

表 2. 理事会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2018.4.26	定例	46名	平成29年度事業報告(案)と決算見直しについて 平成30年度事業計画(素案)と予算(案)について 「PMAJ中期ビジョン」見直しについて PMAJ平成30年度組織および責任者について	承認 承認 承認 承認
2	2018.6.7	定例	46名	平成29年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 平成30年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員候補者選任の件	可決 可決 可決
3	2018.10.25	定例	45名	平成30年度上期事業報告 PMシンポジウム2018完了報告	承認 承認
4	2019.1.24	定例	41名	平成30年度事業別収支(第3四半期実績および通 期見通)について 特定非営利活動促進法改正に伴う定款等の変更について PMAJ「新春PMセミナー2019」開催について PMシンポジウム2019開催について PBL/PM検定の導入支援について	承認 可決 承認 承認 承認

表 3. 運営会議

回	開催日	回	開催日
1	2018.4.24	5	2018.10.23
2	2018.5.22	6	2018.12.18
3	2018.7.24	7	2019.1.22
4	2018.9.25	8	2019.3.26

表 4. P2M 資格試験 (CBT 試験) 実施状況

(名)

	PMS			PMS プログラム			PMC		
	応募者	受験者	合格者	応募者	受験者	合格者	応募者	受験者	合格者
5月							43	43	30
6月	30	27	13	22	19	10			
7月							43	40	26
9月							84	81	59
10月	54	50	24	23	23	12			
11月							67	63	41
1月							79	76	55
2月	87	78	40	38	36	23			
3月							101	97	63
合計	171	155	77	83	78	45	417	400	274
累計	11,328	10,528	5,133	1,056	990	639	4,797	4,509	3,166

\* 合計：年度合計人数、累計：試験初回実施以降の総累計人数

表 5. P2M 講習会実施状況 (受講者数推移)

(名)

開催月	PMC 講習会	P2M プログラム 知識習得講座	P2M プログラム 実践研修
5～6月	10	4	0
7～8月	14	3	0
9～10月	17	1	0
11～12月	8	0	0
1～2月	0	2	0
3～4月	12	0	0
計	61	10	0

表 6. PM 一般研修

(名)

区分	開催日	テーマ等	参加者
PM 研究 ・研修部会セミナー	4.20	論理的思考のフレームワーク	19
	7.20	ISO21511 : 2018 概要解説	15
	8.31	ISO 21508 : 概要解説	12
	10.19	建設プロジェクトにおける多様な発注方式	5
	1.18	ISO 21503 概要紹介	13
PMP®試験対応講座	6.2～6.23	4日間コース	6
	6.30	1日演習コース	6
	9.29～10.20	4日間コース	7
	10.27	1日演習コース	7
	2.9～2.16	4日間コース	5
	2.17	1日演習コース	6
PMBOK®ガイド基礎講座	5.26	基礎レベル・実践の視点で概観	5
	9.22	〃	5
	1.26	〃	7
特別講座	6.22	「アジャイル開発への道案内」出版記念	14
	12.15	「アジャイル開発への道案内」出版記念	10
PM マイスター講座	5.22	ISS「きぼう」日本実験棟開発 PJ	15
	6.19	海外での PJ の失敗と成功から	3

表 7. 東京例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
233回	4.27	向後忠明	アダプティブマネジメント	34
234回	5.25	野原秀樹	対人関係が良くなる! 仕事に活かせる! コミュニケーション術	21
235回	6.22	内田勝也	セキュリティ心理学とチームワーク	36
236回	7.27	竹久友二	PM実践力に必要な人間力の要は何?	21
237回	8.24	井上多恵子	How to best communicate in a Global PJ	19
238回	9.28	川勝良昭	夢工学式発想法のすすめ	41
239回	10.26	吉野均	PM ナレッジ継承への決め手	20
240回	11.22	林雄代	AI、IoT が創り出す ICT の可能性	19
241回	12.21	森雅司	プロジェクトマネジメントの活用事例	19
242回	1.25	大和田政孝	研究開発を成功に導くプログラムマネジメント	19
243回	2.22	齊藤 善治	システムズエンジニアリングって?	22
244回	3.22	井上 健	横河電機ソフトウェア開発へのアジャイル開発導入事例	22

表 8. 関西例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
141回	6.8	中崎 義己	6次産業化プランナーという生き方	31
142回	7.13	野田 隆史	ヒマラヤの学校建設	18
143回	9.7	中川雅章	アジャイルマインドで意欲を引き出す組織改革のツボ	27
144回	10.12	陸野 礼子	町工場の変革～若者が誇りを持てる会社づくりと働き方改革～	24
秋の特別例回	11.17	真田千奈美 永田 敦 川勝 良昭	・山城屋おんな経営記～1000年企業を目指して～ ・ソフトウェアの障害の根本原因分析をアジャイルにやってみませんか～アジャイルRCAのご紹介～ ・夢工学式発想法のすすめ～AI技術の進化でも職を失わず、豊かな人生を得るため～	33
145回	2.8	高嶋 博	AIの基本からビジネス活用まで	33
146回	3.8	鹿島 我	私が学んだ人心掌握術～放送作家として、女子短大教員として～	28

表 9. PMAJ ジャーナル

号	発刊月	特集等
61号	4月	新春 PM セミナー2018／投稿レポート／PMR 合格記
62号	8月	関西 P2M セミナー2018／プログラムマネジメント意識調査
63号	11月	PM シンポジウム 2018